

# サイクルツーリズムによる自治体間交流（沖縄県名護市）

## 取組概要

本市は自転車観光を推進するに当たり自転車ロードレース大会「ツール・ド・おきなわ」開催が中心的な役割を担ってきたが、競技色が強くサイクルツーリズムにまで繋がっていないなどの課題があった。  
 サイクルツーリズムの先進地である今治市を視察したことをきっかけに、後同市と自転車を通じたまちづくり交流協定を締結し、サイクルツーリズム推進のノウハウを学ぶとともに平成30年度からは自治体連携拡大（名護市、今治市、尾道市、守山市）によるサイクルツーリズム共同プロモーション事業へと発展した。

人口 62,870人 (H30.1.1現在)  
 担当 自転車のまちづくり推進室



協定締結式の様子

## 取組の効果

- ・サイクルツーリズムモデルコース開発
- ・大手旅行社でサイクリングツアー発売
- ・民間企業へのサイクルツーリズム浸透
- ・自治体連携による共同プロモーション

## 創意・工夫した点

しまなみ海道サイクリングコースとして国内外で知名度の高い今治市と協定を結び自転車まちづくりを進める体制を作ったことにより、先進自治体からノウハウを学ぶとともに相互連携による共同事業を遂行できるようになった。

## 他団体へのアドバイス

自治体連携により、お互いの持つノウハウを共有化する事により短期間で事業効果を得ることができる。  
 複数自治体で予算を支出する事により予算規模が増えスケールメリットを活かした事業実施が可能となる。



サイクリングコース